

熊本県立劇場 指定管理者 平成29年度 管理運営評価票  
 所管部局：企画振興部地域・文化振興局文化企画・世界遺産推進課

**施設の管理概要**

指定管理者名	公益財団法人熊本県立劇場
指定期間	平成24年4月1日～平成31年3月31日
施設概要	文化施設 1 目的:県民の文化の振興 2 施設概要 ・コンサートホール 収容定員 1,810人 ・演劇ホール 収容定員 1,172人 ・大会議室 収容人員 162人(机・椅子使用時)、380人(椅子のみ使用時) ・その他 和室、リハーサル室、第1～3練習室 駐車場(普通車 490台、バス 5台)、駐輪場(約150台)
指定管理料	396,834,050円(平成29年度分)

**管理運営の評価**

**1 評価の総括**

**【管理運営業務の水準】**

管理業務の水準の指標	目標値	実績値	差	備考
県劇入場者数	321,000人	357,887人	+36,887人	対前年度 +56,334人
文化事業入場者・参加者数	33,000人	40,663人	+7,663人	対前年度 1,752人
コンサートホール利用率	75.0%	71.3%	3.7ポイント	対前年度 4.2ポイント
演劇ホール利用率	84.9%	76.4%	8.5ポイント	対前年度 10.3ポイント

**【適正な事務執行の状況】**

事務の内容	評価
施設の維持管理、定期点検等	適正
使用料の収納	適正
意見・苦情等への対応	適正

【県立劇場運営方針に定めるミッションの達成度】

【評価の基準】

- A：持続・更なる向上が期待される状態
- B：ステップアップが望まれる状態
- C：見直しが必要な状態
- D：抜本的な見直しが必要な状態

運営方針	評価項目	評価
質の高い事業の実施	質の高い実演芸術に触れる機会の提供	A
	特色ある自主企画事業の実施	A
普及啓発	児童、生徒、学生等に対する質の高い実演芸術に触れる機会の提供	A
	実演芸術の理解を一層深めるための付随事業の実施	A
	アウトリーチ事業の実施	A
	国内外で活躍する熊本県出身芸術家等との連携	A
	日常的に人々が集い自由に文化芸術に触れることができるための工夫	A
専門的人材の確保及び資質向上	専門的能力を有するスタッフの確保	A
	県立劇場スタッフの専門的能力向上のための研修等の機会の付与	A
関係機関との連携強化	県内文化ホール等(県外文化ホール、海外の文化ホール、実演芸術団体等を含む)との共同公演、巡回公演、情報交換等の実施	A
	県内文化ホールへの派遣指導、受入研修、集合研修等の実施	A
経営の安定化	協賛企業の確保等、多様な財源の確保	B
	公演実施者及び鑑賞者の拡大に向けた取組みの実施	A
安全管理	災害時等における事業継続計画の策定、避難訓練等の実施	A
	災害等の非常時における避難者への対応	B
適切な評価基準の設置と事業評価の実施等	自己評価の実施	A
	県の事業評価結果の事業計画への反映	B

## 2 事業内容

### 【文化事業の実績】

事業名		開催日	入場者数	内容
(1) 創造拠点事業			29,030,	
県立劇場自ら取り組む舞台制作や文化団体の活動を支援する事業	ピノキオ～または白雪姫の悲劇～			
	ピノキオ	H29/8/18(金)	822	日本を代表する演出家、宮本亜門の子ども向けミュージカル作品を上演。
	(関連企画) ミュージカルワークショップ	H29/6/11(日)	25	小学生向けのワークショップを実施。
	第59回熊本県芸術文化祭オープニングステージ			
	ヤマカズが贈る 新・オーケストラ	H29/8/27(日)	1,733	指揮者の山田和樹を芸術監督に迎え、県内オーケストラ団体や公募合唱団、こどもオーケストラ総勢450人が参加して実施。
	芸文祭オーケストラ練習 (全8回)	H29/5/21(日) ～8/26(土)	677	ラヴェル/ダフニスとクロエ、マーラー/交響曲第8番の練習。
	芸文祭合唱団練習 (全9回)	H29/5/28(日) ～8/26(土)	917	マーラー/交響曲第8番より第1部の練習。
	芸文祭こどもオーケストラ練習 (全8回)	H29/6/24(日) ～8/26(土)	658	森田花央里/くまモンといっしょほか計3曲の練習。
	オーケストラ指揮法(基礎編・応用編)	H29/8/6(日)、 8/25(金)	97	山田和樹による指揮講座。
	オハイエくまもと協力事業	H30/2/25(日) ～3/18(日)	993	「とっておきの音楽祭」向けのワークショップと、熊本市現代美術館での実施における協力。
	児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験(芸術家派遣)	H29/9/6(水) ～ H30/2/23(金)	633	文部科学省の受託事業として「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に関する芸術表現体験事業」を県内5小学校で実施。
	県劇ゼミ			
	高校生のための舞台技術講座	H29/8/5(土)	68	県下の高校演劇に携わる高校生・教職員を対象に照明や音響のオペレータを学んだ。
	行くぜ! 劇場探検隊 2017(全2回)	H29/8/9(水)	62	小学生とその保護者を対象に演劇ホールを使ってバックステージツアーを実施。
	フロントスタッフ講座	H29/10/8(日)	26	チケットもぎりや客席案内など、フロントスタッフとしてのスキルを学んだ。
基礎から学ぶ! 著作権講座	H29/10/28(土)	53	著作権に精通する弁護士を講師に迎え講座を実施。	

	文化活動支援事業	通年	7,478	7事業に会場費を助成。
	民間共催事業			
	第56回熊本県新人演奏会 (主催:熊本県文化協会)	H29/11/4(土)	496	オーディションで選ばれた県出身または在住の演奏家12人が演奏。
	ベートーヴェン「第九」 (主催:熊本県民第九の会)	H29/12/3(日)	1,124	指揮:松井慶太
	アートキャラバンくまもと			
	アートキャラバンくまもと	通年	2,581	熊本地震を受け始めた新事業。こころの復興を支援しようと、お出かけ公演やワークショップを実施。
	くまモン音楽祭	H29/4/16(日)	868	ゲストにコロクケ、大江千里らを迎え音楽祭を実施。
	宮崎国際音楽祭管弦楽団	H29/5/11(木)	1,492	テレビ熊本、テレビ宮崎、宮崎県立芸術劇場との共催で実施。
	想いで詩コンサート	H29/11/26(日)	340	日本テレビ小鳩文化事業団等の共催で益城町文化会館で実施。
	東京キャラバン in 熊本	H29/10/9(月・祝)~10/15(日)	2,925	東京都、アーツカウンシル東京、熊本市等との共同事業としてワークショップと公演を行った。
	スーパーキッズ・オーケストラ	H30/3/29(木)~3/30(金)	1,662	指揮者の佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラの演奏会を、菊陽町図書館ホールほかで実施。
地域の公立ホールを支援する事業	ネットワーク事業	通年	1,135	「三遊亭好楽落語会」、「林家たい平独演会」、「狂言を楽しむ会」を3市町で実施。
	公立文化ホール支援事業	H29/9/14(金)~15(土)ほか	127	社会包摂事業に関する研修等を行った。
伝統文化の継承と発展を支援する事業	邦楽地域活性化事業	H29/8/9(水)~H30/2/3(日)	1,593	山鹿、荒尾、天草3市での地域プログラムと総括演奏会を実施。
	地域伝統芸能育成事業	H29/12/22(金)~12/23(土・祝),H30/2/4(日)	414	清和文楽人形芝居の普及と担い手の育成を図ることを目的に実施。
	伝統芸能発信事業	通年	31	県内における伝統文化・伝承芸能活動の調査事業を実施。

(2) 普及拠点事業			11,633	
舞台芸術を鑑賞する機会を県民に提供する事業	フィルハーモニア管弦楽団	H29/5/17(水)	1,754	指揮:エサ＝ペッカ・サロネン ヴァイオリン:諏訪内晶子
	KUMAMOTO JAZZ 2017	H29/9/7(木)	1,089	小曾根真 THE TRIO とパット・マルティ ー・トリオによる演奏。
	マイリンスキー歌劇場管弦楽団	H29/12/1(金)	1,569	指揮:ワレリー・ゲルギエフ ピアノ:デニス・マツーフ
	ワハハ本舗「名もなく貧しくもなく美しくもなく」	H30/1/27(土)	152	聴覚障害がある大橋ひろえと、聴者の 大窪みこえによる二人芝居。
	民間共催事業			
	地震 1 年後に熊本の「復活」を祈る コンサート(主催:くまもと音楽復興 支援 100 人委員会)	H29/4/14(金)	1,689	熊本に縁の深い山下一史を指揮に迎 え、マーラー/交響曲第 2 番「復活」を演 奏。
	2017 夏季狂言の会 (主催:熊本「万作・萬斎の会」)	H29/9/9(土)	1,050	狂言師の野村万作・萬斎を迎え、新作 狂言「なごりが原」を上演。
松竹大歌舞伎(2 回公演) (主催:熊日)	H29/11/13(月)	1,764	中村獅童らを迎え、「義経千本桜」の一 幕「すし屋」ほか上演。	
様々な場所で芸術文化に触れる機会を 県民に提供する事業	姜尚中×玄侑宗久対談・講演会 「こころの好縁会」	H29/6/22(木)	891	芥川賞作家で、臨済宗妙心寺派・福島 県住職である玄侑宗久氏を迎え、玄侑 氏の講演会と、館長との対談を実施。
	県劇盆踊り	H29/8/14(月)	850	牛深ハイヤ保存会によるハイヤ踊りの ほか、ゲームコーナーや飲食コーナー を設け、地域住民と交流。
	演奏家派遣アウトリーチ事業	H29/7/5(水) ~ H30/2/26(月)	825	御船町、あさぎり町、益城町の小学校 でアウトリーチを実施。
	ぴっころシート事業	通年		2 公演に 10 の児童養護施設の子どもた ちと里親 3 家族の計 143 人を招待。
計			40,663	

## 【運営方針に定めるミッションの達成度】

### (1) 質の高い事業の実施

評価項目：質の高い実演芸術に触れる機会の提供

評価	理由
A	<p>オーケストラ、管弦楽、ピアノ、合唱、伝統芸能など、様々な分野で一流のアーティスト等による自主事業を実施しており、幅広い層の県民に質の高い実演芸術に触れる機会を数多く提供している。著名なアーティストの公演のチケットは完売又はほぼ完売となる等、興味・関心が高い事業を実施している。</p> <p>また、公演の企画・立案に当たっては、見識者等で構成する「文化事業委員会」に意見聴取を行うなど、広く県民ニーズを反映した内容となるよう努めている。</p>

評価項目：特色ある自主企画事業の実施

評価	理由
A	<p>平成 29 年度の県芸術文化祭オープニングステージは、世界的指揮者・芸術監督である山田和樹氏が企画するプロジェクトの 3 年目、最終章であった。「オーケストラ」をテーマに実施し、プロオーケストラの横浜シンフォニエッタをゲストに、県内のオーケストラ団体や公募合唱団、小中高生による弦楽オーケストラ 450 人が参加して実施。本公演委嘱作品「祈り」を世界初演、オーケストラと日本舞踊の共演など多彩なプログラムを披露し、チケットは完売となる人気公演となった。また、関連事業として、ワークショップ等を開催。関係者や子ども達からも高い評価を得ている。</p> <p>熊本地震からの「こころの復興」に資するために、平成 28 年度から取り組んでいる「アートキャラバン事業」、地震から 1 年を迎えるにあたり民間との共催事業として取り組んだ「くまモン音楽祭」、演劇的手法を用いた「寄り添い型」の子ども向けワークショップ等の取組みも高く評価できる。</p> <p>また、聴覚障害者である女優を起用し観客がハンティキャップをもって鑑賞する演劇公演「名もなく貧しくもなく美しくもなく」の公演内容については、アンケート回答者の 98.8%が大変満足、あるいは満足と回答。社会の関心・評価も高く、社会包摂の基盤としての取組みについて、高く評価できる。</p>

### (2) 普及啓発

評価項目：児童、生徒、学生等に対する質の高い実演芸術に触れる機会の提供

評価	理由
A	<p>県立劇場主催の文化事業においては、ほとんどの公演で学生割引が設定されており、7 公演で託児サービスが実施されている。また、平成 29 年度からは 25 歳以下割引販売も開始。通常公演は、未就学児の入場を制限しているが、4 歳から鑑賞できる公演の実施など、子どもたちや若年層に質の高い実演芸術に触れる機会が広がるよう工夫している。</p> <p>また、児童養護施設の子どもの招待、親子向けの鑑賞プログラムや、子ども向けのワークショップを複数実施するとともに、学校向けの広報にも積極的に取り組むなど、児童等が実演芸術に触れる機会の創出に努力している。</p>

評価項目：実演芸術の理解を一層深めるための付随事業の実施

評価	理由
A	<p>芸文祭オープニングステージ関連企画として、芸術監督山田和樹氏による指揮法講座「オーケストラ指揮法（基礎編・応用編）」やオーケストラ、合唱の練習を複数回実施。</p> <p>その他、付随事業の実施に当たっては、単なる座学だけでなく、体をほぐすエクササイズや発声指導、演奏指導などの参加型のワークショップにより、幅広い層の興味を引く内容とし、鑑賞者の裾野の拡大、実演芸術の理解を深める取組みを行っている。</p>

評価項目 : アウトリーチ事業の実施

評価	理由
A	<p>文部科学省からの受託事業で、児童生徒のコミュニケーション能力育成のため、県内5つの小学校で芸術表現体験を実施。</p> <p>また、時代を担う子どもたちに和楽器の魅力を伝え、県における伝統文化普及に繋げる事業、劇場登録アーティスト2名を小学校に派遣する事業等を実施。</p> <p>アンケート結果等から、いずれの事業においても、子どもたちが実演芸術に触れ、生き生きとした表情や意見を表現している姿が見られ、評価できる。</p> <p>なお、アウトリーチの実施に当たっては、受け入れ先及びアーティストと協働で年間のプログラムを企画・立案し、計画的かつ効果的な事業の実施に努めている。</p>

評価項目 : 国内外で活躍する熊本県出身芸術家等との連携

評価	理由
A	<p>熊本県の重要文化財である「清和文楽人形芝居」公演を県内市町村と連携して実施。また、清和文楽の担い手の継続的な技術向上を図るため、淡路人形座による研修・指導を行っている。</p> <p>県立劇場登録アーティストとの連携や地元実演芸術団体及び県出身アーティストの公演等起用、復興事業等で親交が生まれたアーティストとの連携などにも取り組んでいる。</p>

評価項目 : 日常的に人々が集い自由に文化芸術に触れることができるための工夫

評価	理由
A	<p>劇場が開かれた場(広場)であり、地域住民が気軽に立ち寄る集いの場にしようと、「県劇夏祭り」を開催するなど、より地域に開かれた、人々が集う劇場になるための工夫を行っている。</p> <p>劇場から離れた場所に在る方々にもアートを届けるため、被災地などへアートを届ける「アートキャラバンくまもと」や小学校にアーティストを派遣する「アウトリーチ事業」などにも積極的に取り組んでいる。</p> <p>劇場内には、県内美術愛好家の要望により設置した「県劇ギャラリー」で絵画を展示したほか、生け花の展示や文化情報の掲示を行っている。</p> <p>来館者の利便性を高めるため、熊本都市バスとの連携による臨時バスの運行等にも努めている。</p>

(3) 専門的人材の確保及び資質向上

評価項目 : 専門的能力を有するスタッフの確保

評価	理由
A	<p>長年実演芸術の公演の企画・制作に携わっている職員を有しており、職員の採用にあたっては実務経験者を積極的に採用し、専門能力を有するスタッフの確保に努めている。</p> <p>また、舞台技術公演に関する様々な専門的知識や技術を有する人材を育成することを目的に「県劇ゼミ」を実施。高校生のための舞台技術講座、フロントスタッフ講座、著作権講座により、専門的知識が学べるよう研修内容を工夫している。</p>

評価項目 : 県立劇場スタッフの専門的能力向上のための研修等の機会の付与

評価	理由
A	<p>年間を通して、組織内での研修、(公社)全国公立文化施設協会や熊本県公立文化施設協議会での研修会への参加等を通じて、管理運営業務に必要な知識と技術の習得、職員の資質向上に努めている。業務管理、自主文化事業、技術研修をはじめ、個人情報保護、ハラスメント等リスク防止研修、高齢者対応等の体験研修の実施、大規模地震やテロ対策研修等、研修内容は多岐にわたっており、幅広く職員に学ぶ機会を付与している。</p>

#### (4) 関係機関との連携強化

評価項目 : 県内文化ホール等( 県外文化ホール、海外の文化ホール、実演芸術団体等を含む )  
との共同公演、巡回公演、情報交換等の実施

評価	理由
A	ネットワーク事業、アウトリーチ事業、職員研修等において、県内文化ホール等と協働で事業を実施し、併せて情報やノウハウの提供を行っている。 また、ホームページや館内でのポスター・チラシ等掲示により、県内文化ホールの公演情報の提供を行っている。 熊本県公立文化施設協議会( 加盟 34 館、熊本県立劇場は会長館 )で県内公立文化ホールの連携を強化し、情報共有を図っている。平成 29 年度においては、協議会と共同で県内の公共文化施設の被害状況等をまとめた『平成 28 年熊本地震記録誌』を編纂刊行している。

評価項目 : 県内文化ホールへの派遣指導、受入研修、集合研修等の実施

評価	理由
A	県立劇場からの派遣指導、県立劇場での受入研修を行っているほか、熊本県公立文化施設協議会・会長館として、集合研修の企画・運営にも取り組んでいる。 舞台公演を支える技術者の減少が課題となるなか、将来の技術者養成につなげようと、高校生を対象とした舞台技術者養成講座や劇場スタッフのスキルアップのための研修会を実施。県内文化ホールへの指導や、県立劇場が主催する研修会への受入れを行うなどの支援も行っている。

### 3 経営の安定化

#### 【施設の利用状況】

施設名	年度計		前年度計		前年度比	
	開館日数	335	348	13日		
コンサートホール	利用可能日数	254	184	70		
	利用日数	181	139	42		
	利用率	71.3%	75.5%	4.2ポイント		
	入場者数	195,304	134,817	60,487		
演劇ホール	利用可能日数	242	188	54		
	利用日数	185	163	22		
	利用率	76.4%	86.7%	10.3ポイント		
	入場者数	125,888	122,333	3,555		
大会議室	利用可能日数	325	184	141		
	利用日数	90	128	38		
	利用率	27.7%	69.6%	41.9ポイント		
	入場者数	11,670	23,506	11,836		
和室	利用可能日数	329	210	119		
	利用日数	71	88	17		
	利用率	21.6%	41.9%	20.3ポイント		
	入場者数	946	866	80		
音楽リハーサル室	利用可能日数	327	209	118		
	利用日数	228	147	81		
	利用率	69.7%	70.3%	0.6ポイント		
	入場者数	7,555	4,683	2,872		
演劇リハーサル室	利用可能日数	329	164	165		
	利用日数	173	98	75		
	利用率	52.6%	59.8%	7.2ポイント		
	入場者数	4,319	3,686	633		
第1練習室	利用可能日数	328	212	116		
	利用日数	144	115	29		
	利用率	43.9%	54.2%	10.3ポイント		
	入場者数	3,341	3,588	247		
第2練習室	利用可能日数	330	211	119		
	利用日数	158	128	30		
	利用率	47.9%	60.7%	12.8ポイント		
	入場者数	3,563	2,726	837		
第3練習室	利用可能日数	330	212	118		
	利用日数	203	168	35		
	利用率	61.5%	79.2%	17.7ポイント		
	入場者数	4,528	4,358	170		
その他の入場者数	入場者数	773	810	37		
入場者数合計		357,887	301,553	56,334		

#### 【点検・調査結果及び評価】

・平成29年度の入場者数は、熊本地震で被災した施設の災害復旧工事や演劇ホール舞台吊物機構改修工事を実施しながら開館していたこともあり、前年度に比べ増加しているものの、平年の7割程度に留まっている。また、両ホールの利用率については前年度よりいずれも低くなっているが、これは熊本地震の本格復旧工事等の施工日を確認するため施設の利用制限を行ったことが原因である。

・平成30年度は、保全計画による改修工事等が計画されており、安全対策、騒音等利用者や周辺住民に理解を得ながら、引き続き利用率アップや入場者数の増に向け取り組んでいく必要がある。

## 【利用者調査結果】

(主催者)

調査 実施内容	調査年月日	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日	
	調査方法	施設利用者を対象にアンケート用紙への記入方式で実施	
	調査対象数	80 団体	
評価項目(4段階評価)		満足度(平均値)	
		29 年度	28 年度
1	利用料金について 4:安い 3:やや安い 2:やや高い 1:高い	2.65	2.65
2	利用手続きについて 4:円滑 3:概ね円滑 2:やや煩雑 1:煩雑	3.68	3.73
3	フロア職員の接客態度や対応について 4:良い 3:概ね良い 2:あまり良くない 1:良くない	3.95	3.97
4	ステージ職員の接客態度や対応について 4:良い 3:概ね良い 2:あまり良くない 1:良くない	3.88	3.94
5	舞台・音響・照明について 4:良い 3:概ね良い 2:あまり良くない 1:良くない	3.74	3.84
6	また利用したいと思うか 4:是非利用したい 3:利用してもいい 2:あまり利用したくない 1:もう利用したくない	3.92	3.96
平均		3.64	3.68
利用者からの意見等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局、フロアスタッフの対応が丁寧。臨機応変に対応していただいた。</li> <li>・舞台、音響、照明の担当の方には、パフォーマンスをいかに最大限に見せられるかを考えて様々な工夫をしていただき、感謝。</li> </ul>	
【調査結果及び評価】 例年同様の傾向であり、利用者の満足度は概ね高いと評価できる。			

(来館者)

調査 実施内容	調査年月日	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日									
	調査方法	来館者を対象にアンケート用紙への記入方式で実施									
	調査対象数	12,280 人( 熊本県芸術文化祭オープニングステージ等 10 事業)									
調査結果	調査分野	回答内容									
		大変満足		満足		やや不満足		不満足		分からない	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
	内容	1,384	66.89	625	30.21	51	2.46	5	0.24	4	0.19
	チケット料金	989	61.47	517	32.13	38	2.36	7	0.44	58	3.60
	開演、終演時間	879	40.41	1,006	46.25	228	10.48	46	2.11	16	0.74
	スタッフ対応	962	44.31	1,103	50.81	53	2.44	14	0.64	39	1.80
	公演情報の入手	661	30.77	1,104	51.40	246	11.45	35	1.63	102	4.75
	鑑賞マナー	770	36.53	1,110	52.66	176	8.35	34	1.61	18	0.85
計	5,645	45.97	5,465	44.50	792	6.45	141	1.15	237	1.93	
利用者からの意見等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大好きなアーティストを目の前にでき、日頃の疲れも吹き飛んだ。</li> <li>・地震以来、辛いこと悲しいことばかりの毎日で心にふたをしていたが、前向きになれた気がする。音楽は、心を豊かにし、嫌なことも忘れ去ってくれる。</li> <li>・公演情報の周知方法をもう少し工夫してほしい。チケットが手に入りやすかった。</li> <li>・演奏が始まってから着座する、咳払い、公演中の雑音、スマホの光、小さい子どもの態度など来場者のマナーが気になった。マナーについての呼びかけがほしい。</li> </ul>									
【調査結果及び評価】 ほとんどの質問項目において9割以上の方が「大変満足」、「満足」と回答し高い評価を得ているが、昨年同様、「公演情報の入手」に関しては同割合が8割程度にとどまっており、より幅広い層に公演情報を伝えるための広報面の工夫が求められる。											

## 【管理運営経費の収支状況】

収入		
項目	内 訳	金額(円)
指定管理委託料	管理業務受託収入、事業受託収入	396,834,050
特定資産運用収入	特別企画事業積立資産利息収入等	11,885
事業収入	創造拠点事業収入、普及拠点事業収入、財団自主文化事業収入	22,322,931
補助金等収入	団体助成金収入、市町村負担金収入	24,278,586
制作受託収入	制作受託収入	7,149,181
広告料収入及び事業協賛金収入	広告料収入及び事業協賛金収入	100,000
基本財産運用収入	基本財産利息収入	8,746
寄附金収入	寄附金収入	2,694,830
雑収入	受取利息収入、雑収入	6,586,802
特定資産取崩収入	文化事業寄附積立資産取崩収入	7,122,776
前期繰越収支差額		39,856,652
合 計		506,966,439

支出		
項目	内 訳	金額(円)
事業費支出	創造拠点事業費支出、普及拠点事業費支出、普及・啓発広報事業費支出	9,959,728
管理費支出	人件費支出、物件費支出、リース債務返済支出	339,000,220
特定資産取得支出	退職給付引当資産取得支出、文化事業寄附積立資金取得支出等	24,915,468
財務活動支出	リース債務返済支出	3,458,808
次期繰越収支差額		39,832,215
合 計		506,966,439

### 【点検・調査結果及び評価】

- ・指定管理委託料以外の収入確保に努め、文化事業等に充当するなど、適正な事業運営が行われている。
- ・当期収支差額から前期繰越収支差額を差し引いた額は黒字であり、堅実な事業運営がなされている。黒字分については、平成 30 年度以降の文化事業等に充当する予定である。

## 【運営方針に定めるミッションの達成度】

評価項目 : 協賛企業の確保等、多様な財源の確保

評価	理由
B	文化庁や地域創造からの助成金の獲得に積極的に取り組んでおり、県民に対し、質の高い舞台芸術に触れる機会を数多く提供している。平成 28 年度からは熊本地震を受け、寄附金制度を創設し文化事業に充てるなど新たな取り組みについて評価できる。 今後は、より安定的な財源を確保するためにも、助成金以外の多様な財源の獲得(会員制度の導入等)にも戦略的に取り組み、経営の安定化を一層図っていくことを期待する。

評価項目 : 公演実施者及び鑑賞者の拡大に向けた取組みの実施

評価	理由
A	チケット販売に係る戦略的な広報・営業活動の取組みや、コンシェルジュ制度の導入による利用者へのサービス向上、付帯事業の充実等により、鑑賞者を増やすための取組みが積極的に行われている。アンケート徴収により課題や問題点を洗い出し、スタッフ間で情報共有してその後の円滑な運営に繋げている。

## 4 安全管理

### 【運営方針に定めるミッションの達成度】

評価項目 : 災害時等における事業継続計画の策定、避難訓練等の実施

評価	理由
A	「熊本県立劇場 危機管理マニュアル」を平成28年8月に見直し、地震発生時には震度ごと（弱震・中震・強震）に分けた対応を策定するとともに、財団スタッフのみならず、催事には主催者とも協力体制がとれるよう事前に打ち合わせを行っている。委託業者も含めた全員で、地震訓練2回、消防訓練3回、テロ対策訓練を1回実施。また、危機管理研修として地震発生時の対応研修、心肺蘇生法とAED取扱い研修、情報セキュリティー対策研修等を実施し、危機管理対策を行っている。 平成29年度は、県内の文化施設の被害状況をまとめた『平成28年熊本地震記録誌』を熊本県公立文化施設協議会と共同で編纂している。

評価項目 : 災害等の非常時における避難者への対応

評価	理由
B	災害等の非常時において緊急的に県立劇場への避難が必要となった者がいる場合、避難場所として施設を提供する方針であり、職員にも周知されている。 今後は、避難場所として施設を提供する場合のマニュアルの整備にも取り組んでいただくことを期待する。

## 5 適正な事務執行等

### 【施設維持管理業務実績】

作業項目		実施頻度	備考	
業務名	業務内容			
清掃業務	日常清掃	事務室等 6 項目	使用のつど~1回/1~2日	仕様書に沿って適正に実施
	定期清掃	事務室等 4 項目	2回/月~4回/年	仕様書に沿って適正に実施
高所清掃業務	ガラス清掃	-	4回/年	仕様書に沿って適正に実施
水質管理	水質検査(市水)	残留塩素測定等 3 項目	1回/週~年	検査結果問題なし
	水質検査(井水)	定期検査	1回/年~3年	検査結果問題なし
	受水槽等清掃		1回/年	仕様書に沿って適正に実施
環境測定	空気環境測定	-	6回/年	測定結果問題なし
衛生管理	特定建築物維持管理実績報告		1回/月	仕様書に沿って適正に実施
	害虫駆除		2回/年	仕様書に沿って適正に実施
	汚水ピット清掃		2回/年	仕様書に沿って適正に実施
	ソーラー蓄熱槽清掃		2回/年	仕様書に沿って適正に実施
警備業務	常駐警備業務		全日	仕様書に沿って適正に実施
	駐車場整理用務		必要時	仕様書に沿って適正に実施
設備維持管理	総括管理、運転監視、日常巡視点検	設備 39 項目	1回/週~7回/年	点検結果問題なし
	高圧受電設備保安点検		1回/年	点検結果問題なし
	非常用発電機	法定点検等 2 項目	1~2回/年	点検結果問題なし
	電気設備点検	法定点検等 4 項目	1~2回/年	点検結果問題なし
	空調設備保守点検	ヒートポンプチラー等 15 項目	1回/月~4回/年	点検結果問題なし
	中央監視装置・自動制御機器保守点検		中央監視装置総合1回/年 空調機器 1回/年 他	点検結果問題なし
	昇降設備保守	エレベーター 2 項目	1回/月	点検結果問題なし
	消防用設備保守点検		総合点検 1回/年 外観点検 2回/年 他	防煙垂れ壁修繕済
	特定防火対象物報告		1回/年	仕様書に沿って適正に実施
	自動ドア保守点検		3回/年	点検結果問題なし
	煤煙測定業務		1回/年	仕様書に沿って適正に実施
	給湯ボイラー保守点検		1回/年	点検結果問題なし
	緊急ガス遮断装置保守点検		2~3回/年	点検結果問題なし
	その他の設備維持管理	有料駐車機保守点検		4回/年
施設予約管理システムソフト保守			問題発生時	仕様書に沿って適正に実施
舞台吊物保守点検			3回/年	経年劣化のため要更新
舞台迫り保守点検			3回/年	大部分の部品交換要検討
舞台照明システム保守点検			2回/年+問題発生時	点検結果問題なし
舞台音響システム保守点検			2回/年+問題発生時	点検結果問題なし
楽器類保守点検	ピアノ等 4 項目		1回/年+(調律 3回/年)	大会議室ピアノ弦全張替
	チェンバロ		1回/年	点検結果問題なし
一般廃棄物	廃棄物処理業務		日曜、祝祭日を除く毎日	仕様書に沿って適正に実施
植栽等管理	樹木管理業務	駐在作業等 9 項目	随時、20日/月~3回/年	仕様書に沿って適正に実施
その他	トイレ洗浄機、消臭器		1回/2ヶ月	仕様書に沿って適正に実施
	玄関マット等		1回/2週	仕様書に沿って適正に実施
	貸植木		1回/月	仕様書に沿って適正に実施

#### 【点検・調査結果及び評価】

- ・維持管理業務は適正に実施されており、安全・清潔・快適な劇場の施設・設備の提供が行われた。
- ・熊本地震による復旧工事等を実施しながらの開館であったが、的確に対応し、館内の安全確保を実現している。

### 【使用料の収納実績】

月	要収入額	収入済額	収入未済額	摘要
(H29) 4	13,234,830	10,016,680	3,218,150	
5	6,616,790	9,454,800	380,140	
6	5,987,960	4,589,240	1,778,860	
7	8,682,320	9,576,210	884,970	
8	15,282,610	13,911,740	2,255,840	
9	11,053,580	11,673,530	1,635,890	
10	15,817,950	15,969,930	1,483,910	
11	11,029,640	11,284,180	1,229,370	
12	8,506,020	9,400,680	334,710	
(H30) 1	11,801,930	12,040,600	96,040	
2	4,952,820	4,989,000	59,860	
3	4,443,610	4,252,150	251,320	うち、使用者に還付 1 件 97,790 円
(4)		251,320		
(5)				うち、使用者に還付 1 件 3,240 円
年度計	117,410,060	117,410,060	0	うち、使用者に還付 2 件 101,030 円

【点検・調査結果及び評価】  
年間を通して、使用許可及び収納事務は適正に行われた。

### 【意見・苦情等の対応】

利用者からの意見・苦情等	改善状況
職員等の接遇に関する事	例会時等に組織内で情報共有し、繰り返し注意喚起を実施している。
駐車場に関する事（満車時の対応、入出庫時の混雑、等）	満車が予想される日をあらかじめ、広報紙「ほわいえ」、ホームページ等で周知するとともに、駐車場の空き状況をホームページでリアルタイムに確認できるようにしている。 また、駐車場満車時や、入出庫時の混雑解消のため、職員や警備員を配置した誘導整理を行い、混雑回避に努めた。

【調査結果及び評価】  
利用者からの苦情に対してすぐに事実確認、分析、組織内での情報共有を行うとともに、相手方への即時対応、再発防止等に向けた取組みが検討されるなど適正な対応が取られている。  
校区自治会の会合に参加し、要望把握に努めるとともに、公演情報を提供するなど、近隣住民・団体との協調に努め、苦情・要望等があった場合には適切に対応し、良好な関係の維持・発展に努めている。

## 6 適切な事業評価の実施と翌年度計画への確実な反映

### 【昨年度の評価で改善を指摘された事項に対する対応】

指摘事項	改善内容・結果
会員制度の構築等、財源確保及び入場者の維持・拡大に関する取組みが進んでいない	情報収集等を行っているものの、具体的検討には至っていない。
幅広い層に公演情報を伝えるための広報面の取組みが必要	ホームページ、フェイスブックをにより、即時性のある情報提供を行った。IT弱者に対しても紙面による情報提供を行っているが、依然として、「公演情報、チケットの入手困難」などの意見があがっている。
専門的人材の確保・育成	スタッフに積極的に研修を受講させ、長期的視点で育成に取り組んでいる。
災害時・非常時における避難者への対応	県立劇場危機管理マニュアル及び利用者（主催者）から徴収する危機管理計画書をもとに危機管理体制表を作成。互いに協働して避難誘導する体制をとり、事前打ち合わせ時に催事者と手順を確認した。 今後避難場所となった場合の件や関係機関との役割分担の明確化が必要。

### 【運営方針に定めるミッションの達成度】

評価項目：自己評価の実施

評価	理由
A	文化事業を実施するにあたり、鑑賞者アンケートにより公演・各種サービスに関する満足度や、感想・意見を客観的に評価するとともに、自ら定量・定性評価を行い、今後の事業の企画・運営に反映させている。 また、県内の芸術文化関係者をメンバーとする文化事業委員会を設置し、文化事業の内容について意見聴取している。

評価項目：県の事業評価結果の事業計画への反映

評価	理由
B	「会員制度の構築等、財源確保及び入場者の維持・拡大に関する取組み」については具体的検討には至っていない。 熊本地震の影響を受け、利用者数、利用率等当初の目標値を達成するのは、難しい状況にあるが、地域に開かれた劇場を目指し、工夫を重ね、魅力ある実演芸術公演の提供の実現等、利用者数の回復に寄与するよう努めている。 今後、より県の文化振興の拠点としての役割を果たすために、当初目標数値の達成に努めていただきたい。